



心
之
住
来

十
七
日
末
渡
迄
銀
作



自遣往來

陽春之慶賀珍重
富貴人美福壽甚
新與自他聖堂
今者雖年高
於



石上有体初
沖總式元日
沙方之國
秋之沙
之面

人徳あまの徳とくの 健けん士し 流りゅう頂てい載ざい之を
上うへ又また大だい中ちゆう納なつ之を 衆しゆ議ぎ中ちゆう均きん少せう
將しやう侍じ從じゆ之を 宿しゆく之を 諸しよ大だい吏し近きん
志し大だい腹ふく願げん究きゆう七しち場ばう之を 作さく露ろ
之を 聖せい奉ほう之を 友ゆう位い之を 所しよ深しん或あ友ゆう
あまの けん せう じ じゆ せい だい ぶく げん きゆう しち ばう ざく ろ せい ほう いう じゆ せん じん かい とも

或ある以ひ廣ひろ蓋ぎ津つ飲いん之を 日ひ者しや諸しよ大だい念ねん
息いき子し母ぼ之を 位い之を 友ゆう及あ其その法ぽう在ざい中ちゆう之を
沈しん人にん及あ東とう都と大だい坂ばん志し良りやう増ぞう見けん
漢かん之を 書しよ銀ぎん座ざ并へい坐ざ之を 尊そん之を 釋しやく
作さく之を 落らく海かい亦また之を 為な物もの其その持ぢ之を 小せう
ある 以 ひろ ぎ づ 飲 日 者 諸 だい 念 息 子 母 之 位 之 友 及 其 法 在 中 之 沈 人 及 東 都 大 坂 志 良 増 見 漢 之 書 銀 座 并 坐 之 尊 之 釋 作 之 落 海 亦 之 為 物 其 持 之 小

禮。是。同。日。入。夜。為。出。德。初。而。刻
大。廣。間。出。淨。福。惟。大。本。名。令
者。長。袴。喇。裝。口。姓。猿。樂。器
后。板。緣。由。雜。子。之。番。所。謂。老。松
東。水。之。沙。老。也。折。之。小。海。堤。之

從。法。復。本。所。之。空。室。基。礎。銘
披。函。有。之。向。出。酒。宴。也。出。作。法
之。依。據。言。汝。乃。新。從。頭。為。端
之。向。之。整。之。也。之。拋。灯。之。輝。之。檜。之。多。之
燒。年。每。火。之。映。垢。水。不。異。白

重公入日寛水寺僧住教

十行半宿去道里遠境諸

寺法山出家社人山行爲教

百人充滿于堂中奉洋古顔

七日入七種山終於十一日去

清具是清祝每連歌山真行

是依清德例也十女月名恒例

諸古禮十七日東齋山清齋宮

廿日同取清系堂廿日月増とち

清佛福也凡此日去人別而修改

御装束高面長柄御樂向供

奉勇士三行列歩其出之威爾

衣冠衛府有之刀帯又或

時大紋風折馬慣子也布

衣山下平約頗袷士負

ついで整圓人志為帽子

系袍袴平仗奉侍御儀

汗殿及御衣袴御儀

奉御好意結志管金虫

珍瓏与洗年尻僧先解

經之細も續讀之音聲年計
會の郷るまの雲九天
新降をの薩來臨法物白疑
病も事本齒枝教業翻を起
下地を地黙者屈膝抱胆況

於人倫字空不傾濁作首
御先祖の沙業敬仏神
古信作理世安民の法政云
給云給奉代未成を
奉世不知也行進日時

昔く由祝儀より外條時
 少後亦も綿糸新後
 減目出夜沙粒衣展合月
 秋極子秋万歳不易
 近代惟本幸修式固茂

國々土産取々珍奇あり
 進物菓肴衣履悉敷以下
 雖今混乱但思出粗弛先菊
 沈光傳大海一滴本一毛也
 先正菓子る古野極子肥矣

朝大和枳あさふやまとがに 小深柿こあぶらき 肉煉枳にくせんがし 八やち
 代蜜柑しろみかん 白梅しろばい 梅子うめこ 赤系あかぎ 瓜うり
 赤瓜あかうり 河豚かぶら 瓜うり 瓜うり 瓜うり 瓜うり 瓜うり 瓜うり
 田嶋でんじま 子瓜こうり 油あぶら 系ぎ 鯉い 芝あま 青あお 瓜うり 瓜うり
 海苔のり 馬刀まて 蛤かき 足あし 垢あか 菱あじ 醒あめ 升がね

倭仙あま 菴せん 糲ごん 水餅みづもち 甲州こうしゅう 楊梅やまびこ
 林檎りんご 丹波たんぱ 大栗おおい 胡こ 倉くら 山椒さんせり 鎮ちん
 西さい 薑しょう 苺い 瓜かん 仁にん 情じょう 多た 待まち 酒しゅ 白あ 芋う 芋う 芋う
 兼き 地ち 海苔のり 相良さうら 和布わふ 雅みやび 海藻うみも
 十じゅう 宿しゆく 海苔のり 目め 先せん 山さん 总すべ 葺ふ 留る 士し

若松中瀆蘇川萃海臺入

野新志柳柳竹島飽海都

履平紀伊國在冬酒具漢網

丹後新能登新志城淳龜海

丹渥幸松布昆布脛胸腹

小豆海幸海嵐六島務字

和綿黒瀆今田船船約船新

志筑塩幸奥品紐披子著

塩物瀆河後同法菜味香

瀆新能新瀆依稍糟漢

練子善河深山菓并秋漬物
を木漬く鶴雁物南の薯蕷
同雄子存の雲雀神首鶴あり
札鶴川馬湖煮く菓子飽生
乾松張魚近干細魚丸交切

練子善河深山菓并秋漬物
を木漬く鶴雁物南の薯蕷
同雄子存の雲雀神首鶴あり
札鶴川馬湖煮く菓子飽生
乾松張魚近干細魚丸交切

索野川侯羊荳福知山蕨粉
横須賀上治稻荻山松茸東条
馬頭芽勢州東希松虎梨
子小布乾粟道明寺香精演
名納豆若津寺酢麻地酒

会津蠟燭炭中煎筑後焼
少多去鴉風呂茶古恙高山面
插片日光既細炭一合炭石
宝焼系院伊万里焼四條
焼佳利信傳不焼水龍薩摩

燒茶入膳やらのちやのれ可燒針唐池燒香やらのいんこううらつやらのうら

燒琉球芭蕉布ろほうりゅうのたま同池盛酒あまのくあいかり

古箋新筆こひらのあんなひらの繪襖異國えうすんいこく

奉朝みんてうの墨法ぞく陸奥甲斐むつ後傳のちでん

儂よ松茶朝まつちや鮮あまの大鷹鷲おほたかじゆ兄あに

鶴つる鶴つる在あつ鶴つる在あつ絨刺じゆし好この送そう物もの

仙せん基き南なん甲かう府ふ信しん州しゆ大だい佐さ

薩さつ摩ま後ご弓きう氏し具ぐ本ほん權けん甲かう

胃い方かう刀とう長ちやう刀とう弓きう矢や伎ぎ陀た虫ちゆう

藥やく能ね定ぢやう穂すい調てう度ど搦なつ矢や國こく

蔣香猫乳雀口赤鳥黃頭鳥
砂糖多蔣香海旭長生鳥
錦雞田鶴鳥白以多鶴鴒
呼名飛雀華東埔塞鳩金
鳩鳥巢蜜砂糖三圍米乾

眼肉蒲萄酒此外海心際
限雖是內廣特正席之概
山字店中抄大慶一淨攝
方安余町也從郭外東方
五字八所燈本挽所鉄炮測

女本三谷且大叢海為僕本之
 十町是海岸少技加之西之五
 市谷中野牛込小日向
 小石川高田雜司谷本村
 二里塚南台至平赤坂馬山

一本村橋田愛宕下西之保
 麻布濃谷白金園志池と芝
 本門神奈川と七田と東海
 順路是之水と浅草河茅束
 隅田川中住板橋越谷平柳

まがよりあり すべて さうざい きんより あん
と百里也都る東西二百里南
水十餘里大山名く一葉く也
一葉作心重根の葉地以珠
玉為砂云泉あり葉山接眺
望僅日夜佳遊一宴以外

市々神社仏閣過ぐ一民家
小倉修物端建續下之維
當穴地帯中一武井野名
耳跡る有明一月夜佳家
出る入都終と美あり行整昌

明曆年中 野宮障 本城下

長流 木堂 成 茅 治 病 除 患

去 湯 里 氏 牧 乐 河 幸 必

平 次 當 于 北 有 隅 田 川 野 下

而 深 川 也 元 本 大 河 也 堤 者 也 稿

深 乃 意 必 中 尊 守 乃 水 安 如

矢 以 亦 記 雖 波 乃 波 之 吏

不 在 雅 意 或 是 押 流 漫 深

乃 大 海 成 運 走 水 乃 復 記 危

一 洋 成 果 者 不 知 幾 乃 人

此儀又及有極之紅也何為極
橋下之為性還每法中有嚴
今深惡智化之良后股肢耳
目頭人亂儀淨是正受之端上
徑是之方法年中是又今取

此然謂魯般去材由此
方去良藏向人上德也故作
俗稱友國橋性身談人乞
若男女學此作確難也其
云計從彼橋尺後也安房

上德筑波山日光山浅草藏

寺之根眼在通を江国後

速有山下向上下之歷使

乃又南行且南の景地控飯

西之敵山築東敵山是也

七則 東照宮江鎮座是也

眼所江依念去實見永年

寺中刻南城之鬼門為忠靈

降侍之靈場二六時中

行脚以母之痛志事神体

院內及十所_{いん}方丈社_{じやうざう}僧坊_{そうぼう}叢_{そう}

玉_{たま}薨_{こう}情_{じやう}本_{ほん}連_{れん}枝_し散_{さん}前_{ぜん}湖_こ水_{すい}

祢_ね不_ふ忠_{ちゆう}池_ち中_{ちゆう}樂_{らく}高_{かう}安_{あん}空_{くう}每_{まい}

賦_ふ天_{てん}香_{かう}信_{しん}法_{ぽう}人_{にん}解_{かい}解_{かい}瑞_{ずい}

纒_ま桂_{けい}梳_す蘭_{らん}楸_{しゆ}鼓_こ絃_{げん}編_{へん}今_{いま}揚_{やう}

巨_こ岩_{がん}松_{しょう}風_{ふう}骨_{こつ}打_{うち}浪_{なみ}頻_{ひん}添_{そへ}風_{ふう}

聲_{こゑ}詩_し人_{にん}去_こ題_{だい}池_ち色_{しき}月_{げつ}飲_{いん}人_{にん}

去_こ你_に山_{さん}頭_{とう}花_{はな}樹_{じゆ}下_か浦_{うら}遠_{とほ}或_{ある}芝_し

去_こ後_ご席_{せき}林_{りん}間_{かん}暖_{ぬる}酒_{しゆ}紅_{こう}花_か心_{しん}燈_{とう}

物_{もの}於_お琴_{しん}絳_{じやう}自_{みづか}氣_き響_{きやう}物_{もの}鐘_{かね}聲_{こゑ}

花童男やふこ女むすめ排はら後のち排はら
 舞まひ河か備び商しやう欲よく之の味あじ係けい
 昆こん琴じん琴じん笛ふえ鼓こ古こ鼓こ生せい若じやく鳥とり
 不ふ驚きやう今いま世よ法ほふ代だい也や滅めつ以い免めん傳でん
 夕ゆふ久く穴あな貫くわん

江戸 性未	消息 性未
新形 紋 繼	書 け 百人
新 田 浩	新 法 千 字 文
孝子 及 別 書 是 是 状	隅 田 川 性 未
ちん けり 寺	一 代 八 卦
同 播 補	秀 福 百 人
改 養 記	大 学 子 平 系
百 性 今 所	法 職 性 未
女 今 川	風 月 性 未
今 辨 帖	新 歳 雜 書
尊 占 大 令	同 力 十 附
実 浩 茂	

尾州名古屋本町十丁目 新屋東平板

文
文
目
目

渡
邊

清

